

呂號第五十三潜水艦汽船光毒丸觸衝

0540

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

U-1 (手記)

1/1 (手記)

鐵道省

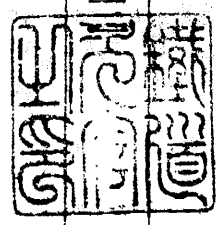
官房機密 (手記)



運第八八三號

大正十四年七月廿五日

鐵道次官 青木周



海軍次官 大角岑生殿

第一課

潜水艦被害事件ニ關スル件



本件之... (Handwritten notes)

法務局 (Stamp)

山田 (Stamp)

別紙寫添付

本年四月二十一日高松港ニ於テ當省汽船光喜丸船長ノ操縦上ノ過失ニ
ヨリ同船ノ曳航セル貨車渡船折柄碇泊中ノ呂號第五十三潜水艦ニ觸
シ損害ヲ蒙ラシメタル件誠ニ遺憾ニ不堪候調査ノ結果責任者ハ神戸鐵
道局長ニ於テ戒諭ヲ加ヘ置候間右ニ御了知相成度此段及御回答候也

官房機密第八八三號

0541

7.27

(船第四號)

大正四年四月廿拾五日

第五號



神戶
仙臺鐵道局長

次官

大臣

船舶事故報告

船長 雇 木田 千代 松 印

本件船長が潮流を観測し誤りし結果と認め甚く遺憾あり次第
意見 本船時光喜丸が突堤外に出た初めは碇泊船多数あり誤り同接近
スルニ及テ潜水艦を知らず船尾に九十間餘あり曳船を為シ
操船不自由ナリト共、動量スヘキ情状ト認め、且出張所長に於テ
戒飾ヲ為シ次第ニテ、特ニ同附スルニ致度

東北印刷

一船名	光喜丸
二事故ノ種別	潜水艦 渡航 接觸
三事故發生ノ日時及場所	大正四年四月廿拾五日 午前五時拾分
四發航地及到達地	發航地 高松港 到達地 宇野港
五運航停止時間	自 四月廿拾五日 午前五時拾分 至 同 日 午前六時五十分 走時 一 十分
六天候	風位 東 風力 三 潮流 西流 吃水 船首 五呎八寸 船尾 七呎八寸
七船舶損傷ノ箇所	潜水艦 スキム水線より三呎左舷側一層曲

0542

<p>八 旅客員數並船員、 旅客死傷ノ有無</p>	<p>ナシ</p>
<p>九 貨物ノ種類、數量、 損害貨物ノ搭載及 配置方法並損害ノ概況</p>	<p>債車渡船三隻(搭載債車九輛)曳航 何等損傷ナシ</p>
<p>〇 救護其他處置ノ概要</p>	<p>雇 水 田 千代松</p>
<p>二 事故關係船員</p>	<p>記事 本年四月二十一日午後二時、債車渡船三隻(搭載債車九輛)曳航、午前五時高松港終止、長さ五十七八呎、本船七十二呎、曳索三百 十尺、渡船隻各九十二、渡船ト渡船ト間各十尺、當時速力三哩、潮流約二哩、後より天候曇天、薄暗く、風力ハ東風、三強、水少、多 事務車より午前五時、五防波堤並航、平席ノ航路(磁針北西北)ニ向ケシモ、渡船ト西ノ遠ク、破洞燈並列セリ、是ヲ西ヘ迂回 セリ、風潮ノ爲航路ヨリ速ク西ヘ流レ、航路ニ復スルハ非席ノ困難ナリ、依テ東ヲ風潮ニ逆航シテ迂回セントヤ、モ此時丁度高松港ニ航スル 帆船ニ隻リ、該帆船風潮ニ乗テ速力非常ニ早ク、此ノ前面ヲ横切ルハ危険ナリ、止ヲ得ズ、破洞船ト破洞船ト間約百三四十間、リ 此間ヲ航過ナリト思ヒ、風潮ヲ考ヘ、先頭破洞船ニ向ケ曳航スル、近クナリ潜水艦トシテ知リ、潜水艦ノ艦尾ハ長ク水中ニ隠レテ、突如セル、 是ヲ先カウサテ左轉ス(此時風潮ニ流レタリ)艦尾ヲ変スルト同時、風潮ニ向ケ逆航セシモ、午前五時十二分、僅ニシテ最 後渡船ニ尾カ潜水艦ノ「スチール」ニ接觸ス、至ル「スチール」ノ水線上約三呎左舷倒(角内)依テ潜水艦ノ破洞列ヲ沖 航過シ、渡船ヲ解放シ、上直ニ潜水艦ニ至リ、艦長不在ニシテ、前ニ時出帆、由ラ間ク渡船ヲ抱キ、高松ニ歸着 致サ、後予丁前六時三十分、該潜水艦ノ號才五十一ニ號ニ至リ、艦長ニ面會上別紙(損傷箇所證明)ヲ交付シ、午前時 潜水艦八隻及母艦ハ吳港ニ向ケ、抜錨シ、其他異状ナシ、本月所定ノ連航ニ従事ス</p>

(丙)

海難報告書

鐵道省

一	番號	陸七九〇號
二	種名及名稱	汽船光喜丸
三	船籍港	高松市
四	積量	五拾陸噸貳參
五	所有者住所氏名	鐵道省
六	船長名狀及種別番号	乙種免許運轉士茅四參貳。號
七	發港地	高松港
八	船長本籍住所	香川縣高松市須崎下拾貳番地平民
九	報告年月日時	大正十四年四月貳拾陸日午前五時拾參分
十	報告場所	高松港西防波堤沖北二鍾
十一	損害程度	潜水艦跡茅五十二号ニテ水線上約三呎左舷側屬西
十二	事変顛末	大正十四年四月貳拾陸日午前五時拾參分

0544

丙

鐵道省

渡船三隻曳き高松發午前五時一三高松
 港外疾雨也凡潜水艦ノ前直ノ航過也際風潮
 ノ為最後ノ渡船々尾ノ潜水艦口蹄 茅才三
 號ノ船首ノ接觸ス潜水艦ノ「約三呎水
 線」上ノ左舷側ニ屈曲ス直ニ高松港ニ引テ返シ艦
 長ニ面會ス午七時潜水艦八隻及母艦ノ兵
 港ニ向テ拔錨ス其他異状ナレ右報告ニ及候也

大正十四年四月廿一日

右 支善丸船長

木田十代松

廣島海軍司令部 海軍部 中世

0545

丙

鐵道省

大正十四年四月廿一日宇野港ニ向テ渡船三隻曳航
午前五時五分西防波堤並航港外ニ被浪ル潜水艦ノ
前面ヲ航過ノ際潮流為メ最後、渡船々尾カ積艦
船首ニ觸レシテ一ノ三反ハカリ左舷側ニ屈曲ス

大正十四年四月二十一日

鐵道省

吉喜丸船長

木田千代

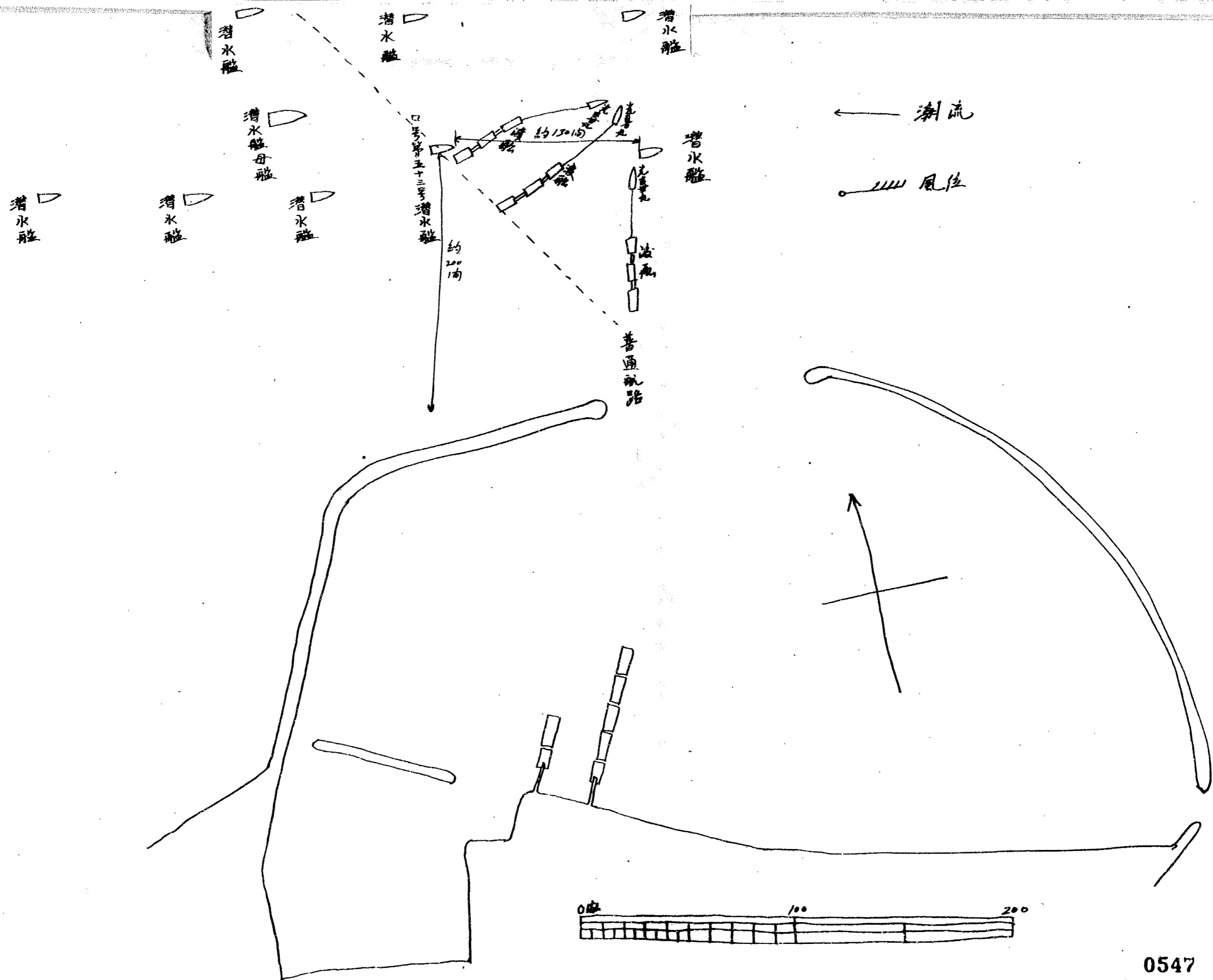
松印

口號 第五十三號

潜水艦長殿

(高松機務局付)

0546



0547

起案罪紙

大正十五年七月一日 起案

起案者 捺印

大正十五年七月九日 發付

發付後起案者捺印

(事務) 軍務局長 第一課長

大 臣

副官

阿部

水野

局員

局員

次官 大 參事官

法務局長

山田

局員

吉村

局員

局員

局員

鉄道者も何等、核探すべし。私等も
報告し提告せんとす。此の如くあり奉り、
附之りて、依りて、本局より、又

大正十五年七月八日 次 友

鐵道次友

清水税被室子件ニ関スル件

本年四月二十一日高松港ニ於テ足野 克五十三 増水税員

官房機密第八七二號

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
						七、二七、三							七月九日	受月日 發

74. 7. 9日

0548

海

算

おれ道

省水官実報光喜丸為船衛セリ被実有知同信
水官実報光喜丸為船衛セリ被実有知同信
上水官実報光喜丸為船衛セリ被実有知同信
右照會又

(おれ字一控係)

控

0549

軍務局長

法務局

三三三

大正十四年四月二十一日

第十潜水隊司令白根貞介

海軍大臣 財部 彪殿

第一課

呂現第五十三潜水隊船体損傷調査報告書

船体損傷程度

水線より約四呎の位置に左の箇所に損傷

(参考)

麻、着脱等、疎動、調査等、結果

水中に沈没、調査等

調査等、結果

大正十四年四月二十一日

14.6.26

14.6.20

14.6.20

14.6.19

4.21

14.5.2

0550

14.4.28

位別圖(午前五時九分鐵道省電報船光喜丸貨
 物列車ヲ塔載セル荷物船三重ヲ曳航シテ本艦
 ノ前方ヲ右舷側ヨリ左舷側、航通シタル際最
 後ノ荷物船潮流ノ為本艦ノ艦首、壓流セラレ
 本艦「システム」五尺ヲ右ヨリ左、左舷損傷セシム
 當時ノ天候概況左ノ如シ

海上ノ模様

和

潮流 流速、一五節程、方向、西

風 向、南東、風力、一

三、損傷ノ甚起タル時ノ處置

(一) 罹難當直員ハ位別圖入り、位置、来リタ

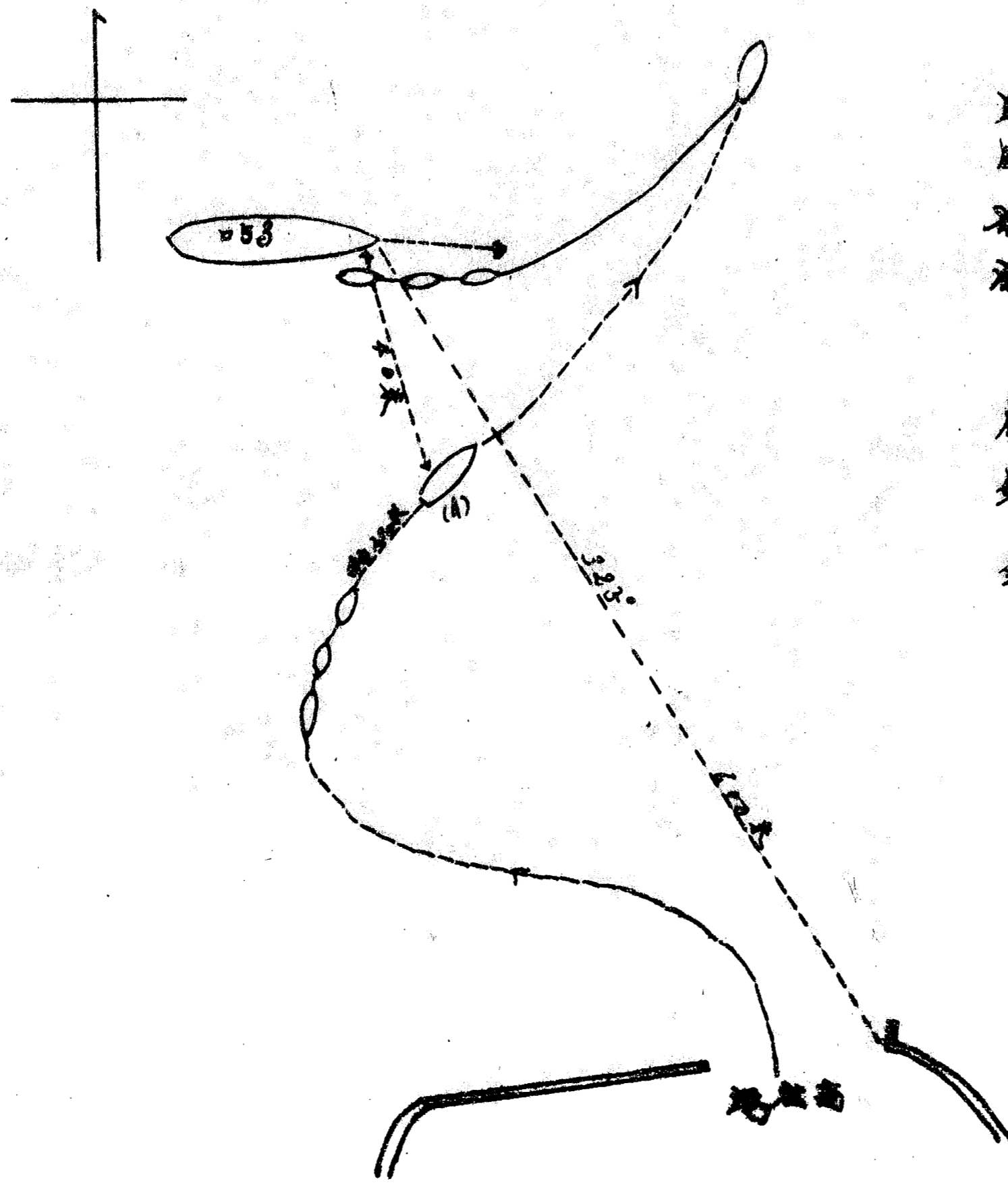
リ時接觸ヲ恐レ注意ヲ促シタリ

(二) 當直將校ハ觸衝防止ノ為、總員上甲板防

報務ポートワク用意ノ號令ヲ下シタルモ間ニ合ハス
 最後ノ荷物船ノ中央部ニテ艦首ノ觸接セリ
 午前六時半船長ヲ相懸レ別故始末書ヲ認メシメ後
 日ノ交渉ヲ約シテ午前七時本艦出港セリ
 右報告ス

(別圖ニ葉並先喜丸船長ノ始末書一葉添)

(終)



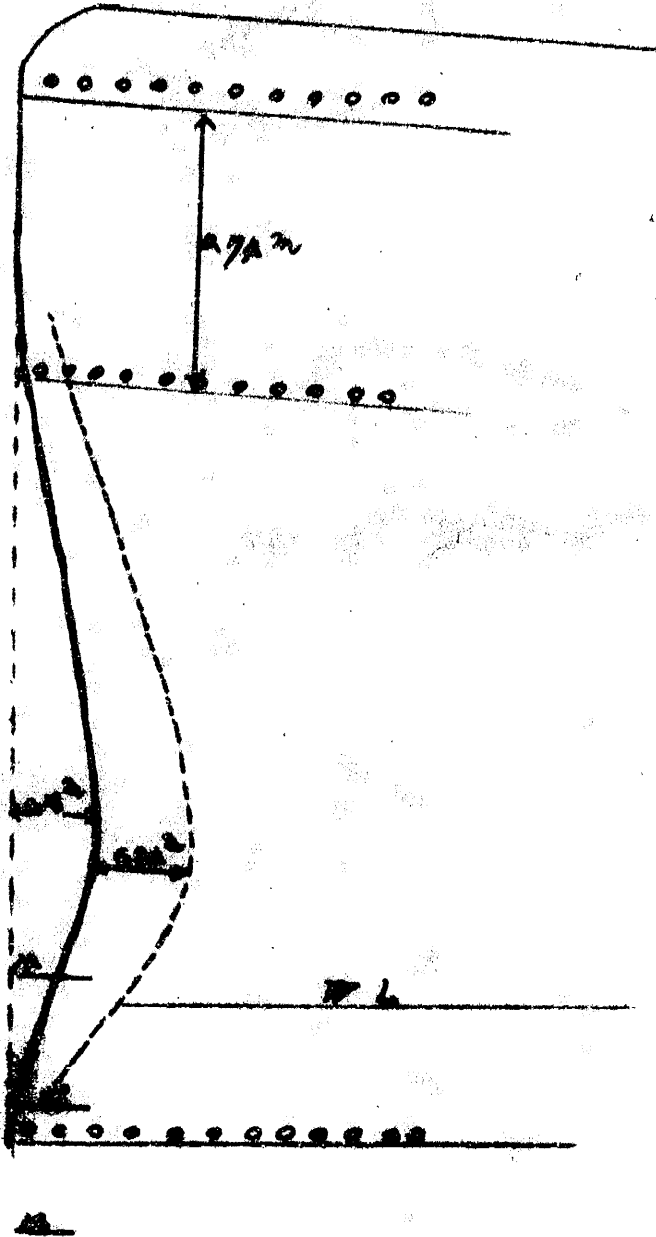
風向 SE
 風力 1
 羅針 80E
 潮流 流速 2.5 節
 流角 170°
 底質 泥
 錨鎖 2.5 節
 錨位 船後 328°、600米

別圖第一
 錨碇時狀況

0553

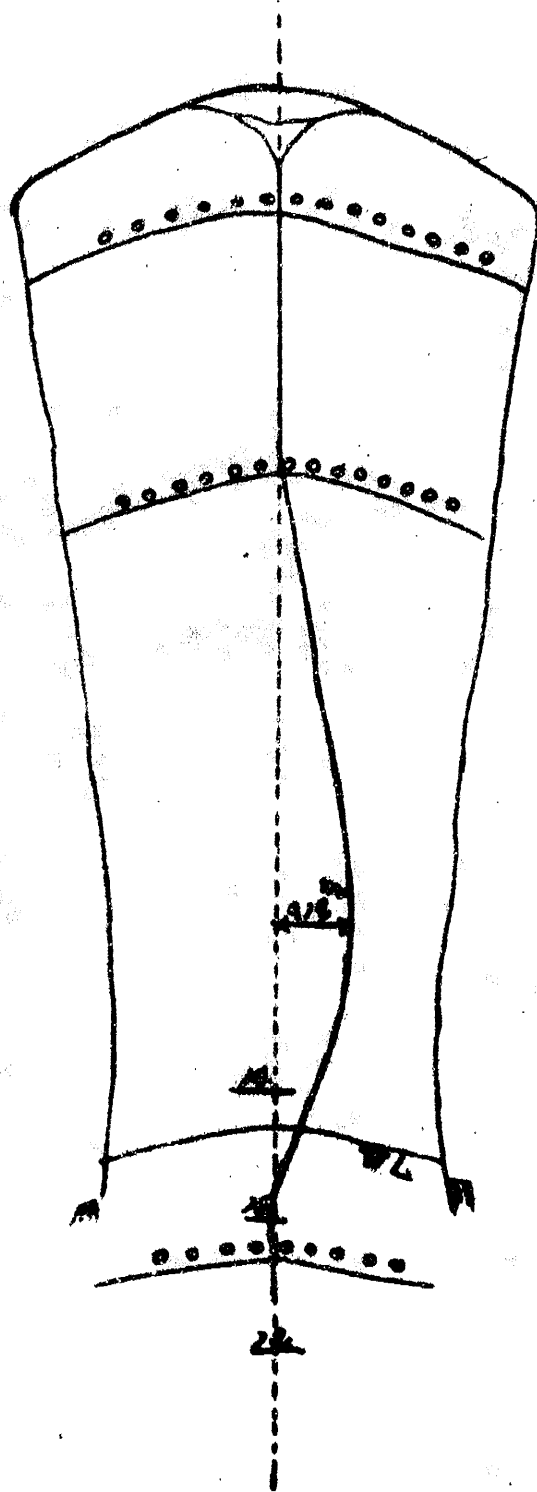
圖面例

別圖第六



0554

前圖



0555

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

大正十四年四月廿一日午前五時後船三隻中航宇
野港ニ向ケ五時五分西防波堤並航艦潜航艦
ノ前面ヲ航過、際潮流、為ノ最速ノ後船
カ^{潜航艦ノ}船首ニフレスタームシテ水線トヨリ三呎ばかり

左舷側ニ屈曲損傷ナス

鉄道省

大正十四年
光喜丸船長

四日廿一日

木田千代松

0556

口 第五十三号
潜水艦長 殿

吉村 権 行

0228

0557

軍務局

第一課

第二課

四九九

后三二一四〇

佐世佐英
海軍省着

第二十五潜水隊司令

秘

海軍大臣
軍令部長

繋留池繋留中 呂号第三十二潜水艦
七日未明暴風、為潜航其他ニ損傷ヲ被リ
只今迄、処竣工予定期日未定ナルニ演習ニ
參與出來ザル見込目下損害取調中

九月九日

14.9.8

0558